

特集「社会的課題に挑む情報システム」の編集にあたって

阿 部 昭 博^{†1}

本学会に限らず、我が国の理工系学会論文誌においては、実社会の情報システムを扱った研究論文の採録数が非常に少ない。この状況に対して、情報システムと社会環境研究会（以下、IS研究会）では情報システム論文の書き方について議論を重ね、2005年3月に初の情報システム論文特集号を実現するに至った。以来、情報システム関連の特集号が毎年刊行され、10件前後の論文が一括掲載されている。

このことは情報システム論文定着に向けて大きな前進であるが、特集号の採択率は30%前後と低迷しており、継続的な普及啓蒙による投稿論文の質向上が求められている。IS研究会では「情報システム論文の特質と評価（神沼靖子、論文誌 Vol.48, No.3）」等を教材としながら、情報システム論文の意義と特質を理解し、投稿論文の質を高めてもらうための「論文執筆ワークショップ」を2006年から計4回開催し、採択率向上に向けた地道な活動を続けている。

本特集号は、過去3回の特集号に引き続き企画され、情報システムの分析・設計・構築・運用と利用、情報ニーズ、情報・データの管理などの理論と実際、情報システムと人間・組織・社会との相互関連などの観点から、実社会の情報システムを扱った論文を広く募ることとした。

投稿された論文の研究対象は、防災・行政・教育等の公共分野からeコマースや企業活動まで多岐にわたり、その専門性は情報システムの分析・設計・開発、運用・評価などの応用技術や構築手法の研究、さらには品質管理やプロジェクト管理、人材育成まで広範囲であった。投稿論文数は41件（取下げ1件）あり、うち採録された論文は8件で、採択率20%であった。

採択率が低くなった主たる理由は、過去3回の特集号と同様に、①扱っているテーマはみな興味深いものの「情報システム開発事例報告」にとどまっている論文が少なく、情報システム論文として具備すべき新規性や有用性が示せていないこと、②新規性や有用性は有している、論文記述の信頼性や分かり易さに関して不十分なものがみられたことに集約される。

くわえて、前述の情報システム論文普及啓蒙によって、投稿者層が拡大したことも一因と思われる。ただし、不採択論文にも大変興味深いテーマが多く、完成度を高めて再度投稿されることを期待している。

採録された論文は、「社会・人間系の情報システム」、「情報システムの開発と運用」、「情報システムの教育」の3分野に整理した。社会・人間系の情報システムには、列車経路選択支援システムの受容性評価、ネットショッピングにおける購買行動、属性認証方式をテーマとした3件がある。開発と運用には、生産管理システムの一般モデル、情報システム運営モデル、情報システム開発成果物の品質管理法を扱った3件がある。教育には、近年注目されているPBL（Project Based Learning）に関する2件がある。

今回、情報システム関連の4回目の特集号を実現することができた。情報システムの研究領域は要素技術や社会環境の変化にともなって常に新しい課題を提供する分野であることから、一層関心が高まることを期待したい。

最後に本特集号を出版する上でご協力いただいた編集委員、タイトなスケジュールの中で丁寧にも公平に査読していただいた匿名査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をいただいた学会担当者の方々に感謝の意を表します。

「社会的課題に挑む情報システム」特集号編集委員会

- 編集長
阿部昭博（岩手県立大）
- 編集委員（五十音順）
浅井達雄（長岡技科大）、市川照久（静岡大）、魚田勝臣（専修大）、大場みち子（日立）、金田重郎（同志社大）、神沼靖子（本学会フェロー）、刀川真（室蘭工業大）、辻 秀一（東海大）、富澤真樹（前橋工科大）、南波幸雄（産業技術大学院大）、樋地正浩（日立東日本）、山口高平（慶応大）、弓場敏嗣（電通大）

^{†1} 岩手県立大学